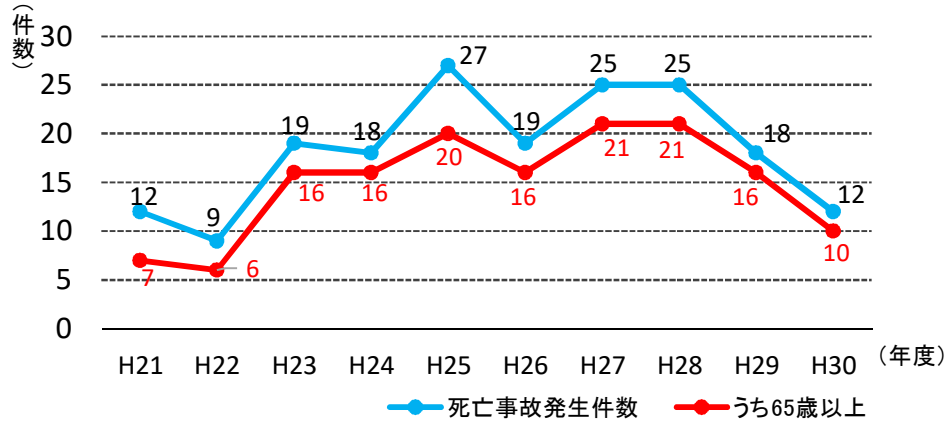


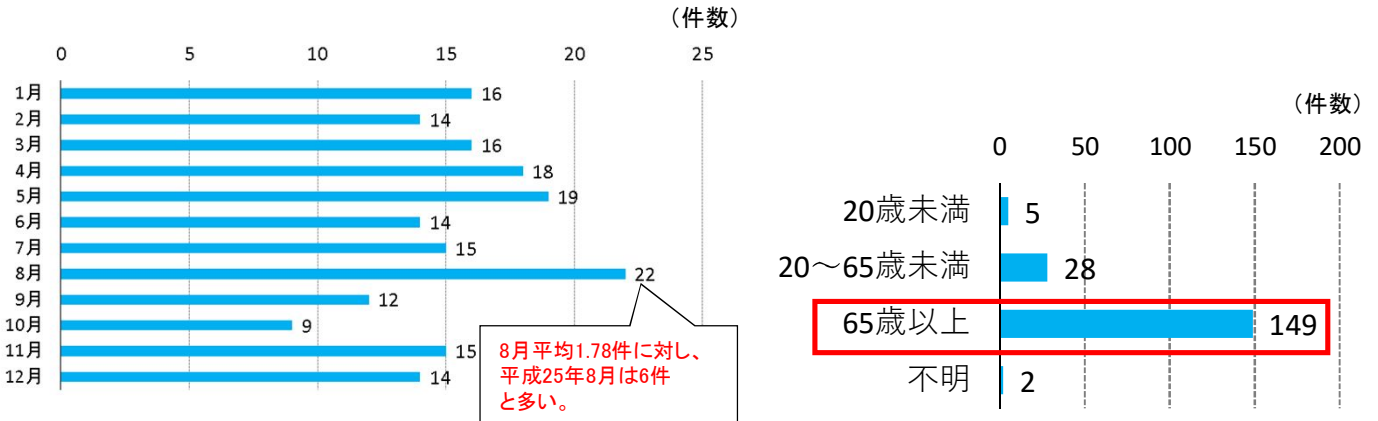
## 第3章 農業用水路への転落死亡事故の状況と分析

### 3-1 過去10年間の転落死亡事故の状況

- 平成21～30年度までの過去10年間に発生した農業用水路における転落死亡事故は、184件。このうち、65歳以上の高齢者は約8割を占めている。
- 月別では、かんがい期（4～9月）、非かんがい期（10～3月）とも発生している。
- 死因は、7割以上（過去3年間H28～H30）が水死で、その他は頸椎骨折や窒息死等によるものである。



過去10ヶ年の転落死亡事故件数の推移

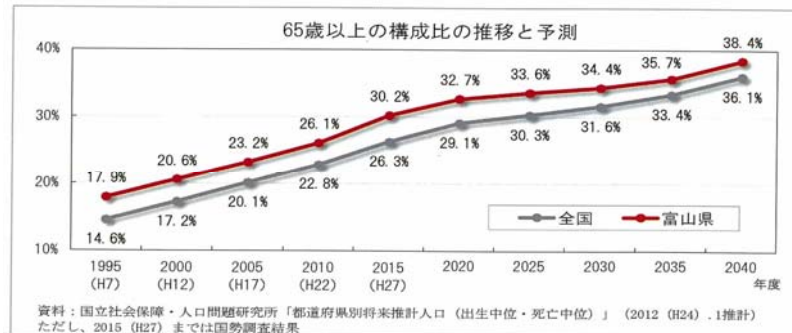


発生月別転落死亡事故件数(H21～H30)

年代別転落死亡事故件数(H21～H30)

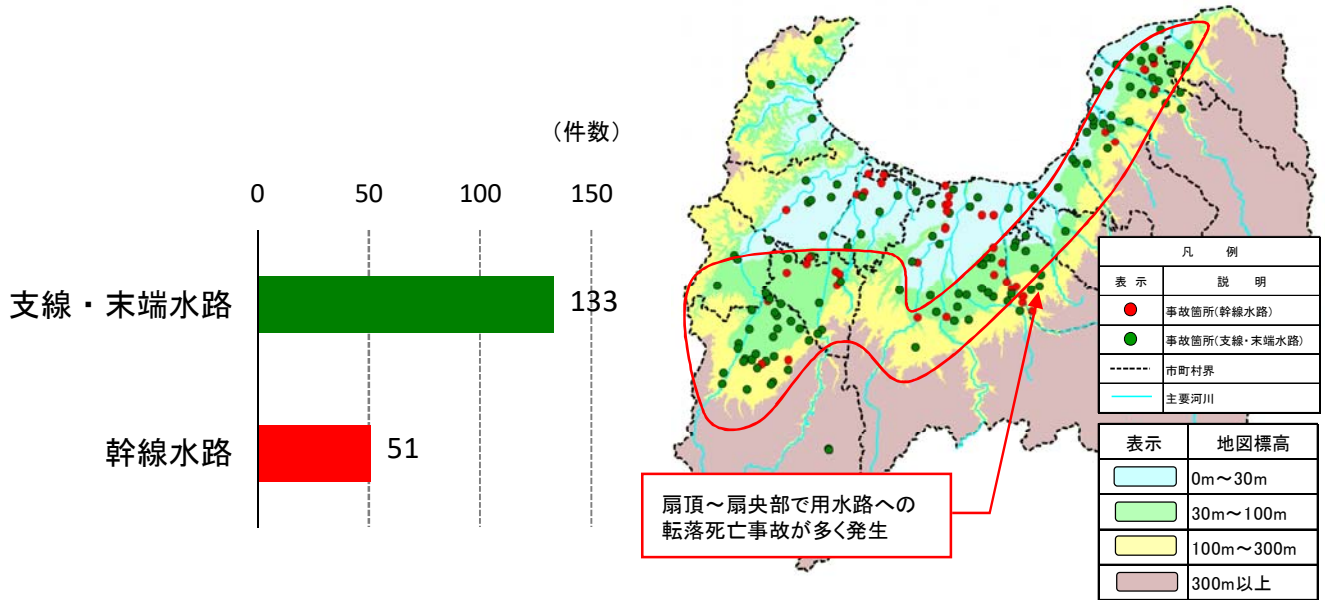
#### ○県内の高齢化の進行(65歳以上の構成比の推移と予測)

- 平成27年の国勢調査における全国の65歳以上の高齢者の割合は26.3%。それに対して富山県は30.2%と全国平均を3.9ポイント上回っている。今後も少子高齢化、高齢者の増加が予測されている中で、事故リスクの高まりが懸念される。



### 3-2 水路の形態・規模別の事故状況

- 死亡事故が発生した水路の形態について、幹線、支線・末端水路別で見ると、支線・末端水路での事故が約7割を占めている。



幹線、支線・末端水路別 転落死亡事故件数(H21～H30)

幹線、支線・末端水路別 転落死亡事故箇所マップ(H22～H30)

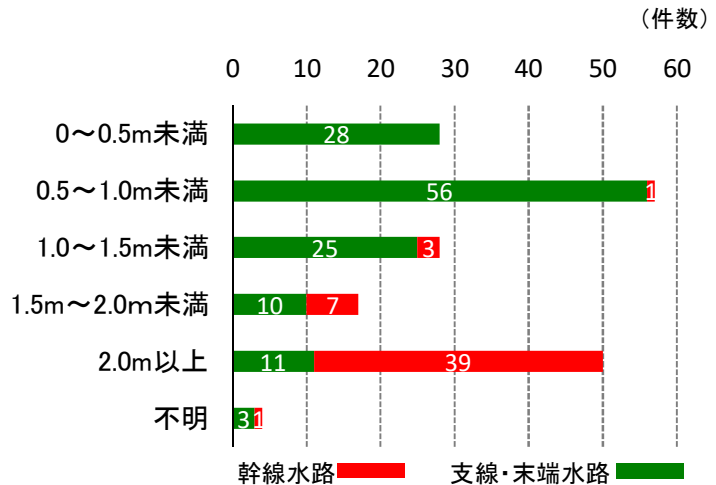


幹線水路のイメージ(牛ヶ首用水)



末端水路のイメージ(富山市平複地内)

- 死亡事故が発生した水路を規模別で見ると、水路幅が1 m未満の小さな水路での発生が約半分を占めている。



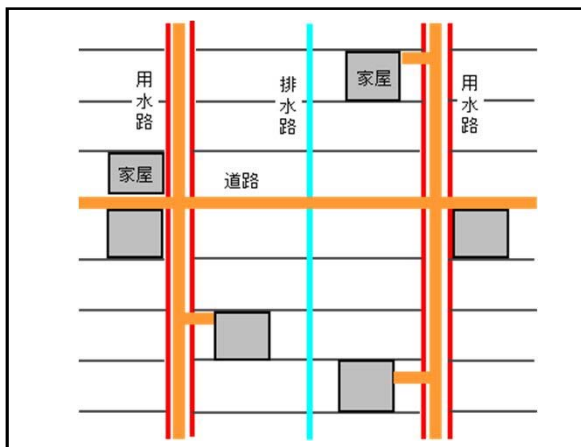
水路幅レンジ別 転落死亡事故件数(H21～H30)

### 3-3 地域別、地形条件等による分析

- 過去の事故の状況から、転落死亡事故が発生した箇所は、河川扇状地の扇頂部～扇中部が多い傾向にある。
- 扇状地の扇頂部～扇中部について、北陸4県を比較すると、富山県は散居形態の集落が多く、他県は集居形態の集落が多い傾向にある。
- このことから、富山県内の農業用水路は、他県に比べて、より日常生活に密着した存在であると言える。

#### <扇状地における住居の状況（他県との比較）>

##### <散居形態>

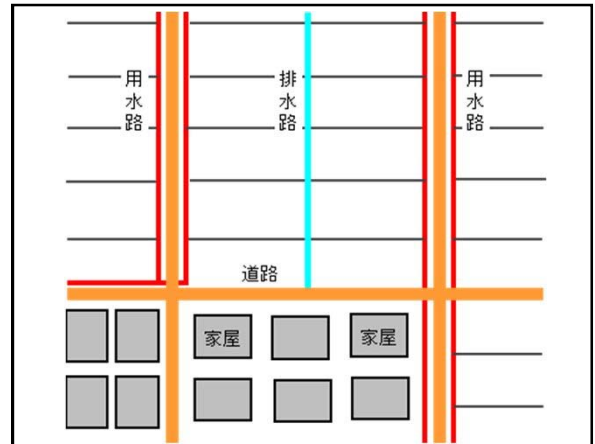


散居形態のイメージ

##### <集居形態>



国土地理院: 電子国土Webから引用



集居形態のイメージ